

## 保育所での情報モラル指導や啓発 - 未就学児の生活改善を目指して -

池田 勇  
植木保育園

kamaken9@gmail.com

保育所(園)(以下、保育所)の子どもには家庭での遊びとして、情報通信端末を利用したゲームや画像の視聴に人気がある。一部の家庭では、それらを長時間利用し睡眠まで悪影響を受けている。保護者や子どもへの情報モラル指導や啓発を模索しながら行っている。

### 1. はじめに

高度情報化社会が進展し、各家庭には高速のインターネット環境も整い、スマートフォンやタブレットパソコン等の情報通信端末が複数普及している。未就学児には、家庭での遊びとして、スマートフォン、タブレットパソコン、ゲーム機などの情報通信端末を使ったものに人気があり、年齢が上がるほど利用する割合も増えている<sup>(1)</sup>。それらの長時間の利用から、保育に不適切な環境の家庭も一部ある。

未就学児を持つ保護者への情報モラル指導や啓発を行いながら、手段方法を改善していきたい。

### 2. 保育所保育指針<sup>(2)</sup>での情報教育

新しい保育所保育指針<sup>(2)</sup>のなかには、未就学児が通う保育所・幼稚園・こども園等の幼児教育を行う施設の共有すべき事項として、新たに、小学校との接続を重視した「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示された。そのなかの「社会生活との関わり」に、子どもの遊びを通じての情報の収集や活用等情報教育にかかわる基礎・基本的な内容が組み入れられている。

### 3. 家庭での情報通信機器の使用と睡眠

未就学児の睡眠指針<sup>(1)</sup>では、保護者がインターネットを一日平均2時間以上利用している家庭では、子どもの利用時間も約2倍長くなり、保護者や子どもへの睡眠にも影響していることが示されている。

### 4. 保護者や子どもへの指導や啓発

#### 4.1 保護者への指導や啓発

保護者向けの情報モラル講演会等で、外部講師を招き実施している事例もあるが極めて少数である。また、生活改善が必要な保護者ほど欠席すると予想される。

指導や啓発方法として、保育所からの配布物が考えられる。関連する機関等が発行している著作物と、保育所内で独自で作成する物の2種類がある。

関連機関等の発行物は専門性や説得力が高く、保護者の理解や協力は得やすいと予想できる。

保育所内で作成する配布物として、子どもの生活アンケートを行い、そのなかから理想的な生活をしている保護者へ聞き取り調査し、その好事例を園便りで紹介した。他に以下の内容が効果的であると考えられる。

- ・健康面：視力、目や脳の発達、睡眠など
- ・学力面：小学校での睡眠と学力との関連、絵本の読み聞かせの効果など
- ・生活面：早寝・早起き・朝ごはん運動の意義、小学校から要望など

#### 4.2 生活リズムチェックシート

保育士が子どもへ情報モラル指導をすることは少ない。テレビやゲームの時間が長くなると目が悪くなる、9時には眠ろうなどの言葉かけである。しかし、自己コントロールが困難な未就学児には効果は低い。

全国の小学校では、生活リズムチェックシートが活用されている。保護者と子どもが協力しながら取り組み、テレビやゲームなどの利用や就寝起床の時間も改善が見込まれる。ある保育所では同様の取り組みを行い、小学校教員からコメントもらっていると聞いた。卒園前の子どもには多様な効果が出ると考えられる。

### 5. おわりに

保育所での情報モラル指導や啓発の事例が少ないため、新たな事例や共有が求められる。

WHO(世界保健機構)は、ゲーム依存症を新たな精神疾患に認定した<sup>(3)</sup>。未就学児からの健康に配慮した情報モラル指導や啓発が重視されるであろう。

#### 参考文献

- (1) 未就学児の睡眠指針 愛媛大学医学部附属病院 睡眠医療センター (2018年3月31日)
- (2) 厚生労働省：保育所保育指針(平成29年3月)
- (3) 朝日新聞デジタル：ゲーム依存症は病気、WHOが認定 要治療の精神疾患に <https://www.asahi.com/articles/ASM5V3PX6M5VULBJ004.html> (2019年6月9日閲覧)